

まつほちくじばさんぎょうかわらづく
松帆地区 地場産業の瓦造りとともにある暮らし

所在地：南あわじ市 松帆



慶野松原 鬼瓦を使ったアート作品

「いぶし瓦の天日干し」南あわじ市 道上浩行氏撮影
(第1回淡路島景観フォトコンテスト
審査員特別賞受賞作品)

麓公園

出典：財団法人淡路島くにうみ協会 HP

淡路瓦は、慶長15年(1610)ごろ、姫路城主の池田三左右衛門輝政が淡路島を拝領し、三男忠雄に岩屋城を修築、由良城を普請させた際、播州瓦の名工・清水理兵衛とその息子弥右衛門を呼び寄せ瓦を焼かせたのが起源であると言われています。

旧西淡町津井を中心に発展し、特に明治初期から一般民家への需要が急速に伸びました。当時の津井では、総戸数800中300戸が瓦の仕事に関わり、国内有数の産地に発展しました。

現在も、淡路瓦をふんだんに使った入母屋造り本瓦葺き民家の景観は島内各所で見られ、淡路島特有の風土が醸し出す地域固有の景観として見る人を魅了しています。また、近年では、淡路瓦を現代建築や緑化資材、アートなどの分野に活用するなど新たな取り組みも行われています。

- 【景観の特徴】
- 自然がつくりだす景観
 - 歴史がつくりだす景観
 - ✓ 生活・文化がつくりだす景観
 - 新しくつくりだす景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道西淡三原ICから県道31号線を北上、車で15分。



地図出典：国土地理院発行2万5千分の1地形図